

平成18年度サンゴ礁モニタリング調査結果

NO.1

市町村名	調査費	調査地点	ヒトデ数	ヒトデのサイズ	被度	水深	状況		
奄美市	388,000	宮古崎	2.5	20-30	0-24%	1-5m	サンゴ被度20%。ハナヤサイサンゴ優占。オニヒトデの被食率10%で、オニヒトデが増加傾向にある。。		
		宮古崎東	38.5	20-30	25-49%	1-10m	サンゴ被度30%。オニヒトデ被食率30%。卓上ミドリイシ優占。オニヒトデが大量発生している。		
		デン浜	264.5	20-30	25-49%	1-10m	サンゴ被度30%。オニヒトデ被食率50%以上。オニヒトデが大量発生している。		
		知名瀬大浜	11	20-30	0-24%	1-5m	サンゴ被度20%。オニヒトデ被食率10%。オニヒトデ増加傾向。		
		大浜	8	20-30	0-24%	1-5m	サンゴ被度15%。オニヒトデ被食率5%。工事による濁りで透明度1-2m。		
		摺古崎	0	—	0-24%	1-5m	サンゴ被度5%未満。98年白化以降、新規加入のサンゴは見られない。		
		赤崎	0	—	0-24%	1-5m	サンゴ被度0%。98年白化以降、新規加入のサンゴは見られない。		
		名瀬湾立神	0	—	0-24%	1-10m	サンゴ被度0%。98年白化以降、新規加入のサンゴは見られない。		
		山羊島	0	—	25-49%	1-10m	サンゴ被度30%。ハマサンゴ優占。ソフコ-ラル群落あり。オニヒトデ食痕少数あり。		
		キョンナ	1.5	20-30	0-24%	1-5m	サンゴ被度10%。オニヒトデ被食率5%。ミドリイシ類が回復してきているが、オニヒトデ増加傾向。		
		有良	8.5	20-30	0-24%	1-5m	サンゴ被度15%。オニヒトデ被食率20%。ミドリイシ類が食害を受けている。		
		芦花部	1	—	0-24%	1-5m	サンゴ被度5%未満。オニヒトデ被食率5%。ミドリイシ類は少なく、食害を受けたと思われる。		
		摺古崎礁池	0.5	20-30	50-74%	1-2m	サンゴ被度50%。エダコモンサンゴとチジミスモンサンゴの群落。オニヒトデの食痕は少ない。白化なし。		
		摺古崎礁原	38.5	20-30	0-24%	1-2m	サンゴ被度5%未満。直径20cmほどに成長したミドリイシも少数見られる。白化なし。		
		大浜礁池	6	20-30	0-24%	1-2m	サンゴ被度5%未満。ミドリイシ類もごく少数見られる。礁斜面からオニヒトデの侵入有り。白化なし。		
		崎原南	2.5	20-30	25-49%	1-5m	サンゴ被度30%。オニヒトデ被食率5%。樹枝状ミドリイシに食痕あり。白化なし。		
		崎原東	0	—	50-74%	1-5m	サンゴ被度60%。卓上ミドリイシ優先。オニヒトデ食痕もなく、健全なサンゴ。白化なし。		
		小湊南	0	—	25-49%	1-5m	サンゴ被度30%。ハナヤサイサンゴ優占。オニヒトデ食痕なし。白化なし。		
		笠利地区	381,000	用安	18	—	0-24%	—	数は多くないが、枝サンゴの間等にはいいているのが確認された。
				節田	12	—	0-24%	—	サンゴの間や下等に多く見られた。
須野集落先	0			—	0-24%	—	まったくみられなかった。		
辺留集落先	0			—	0-24%	—	まったくみられなかった。		
蒲生崎	5			—	0-24%	—	数は多くないが、まばらに見られた。		
赤木名先	7			—	0-24%	—	数は多くないが、まばらに見られた。		
前肥田沖	6			—	0-24%	—	数は多くないが、まばらに見られた。		

平成18年度サンゴ礁モニタリング調査結果

奄美市	住用地区	284,000	黒崎沖	3	30cm未満	5%未満	10-20m	前回と比べ、比較的サンゴは維持されている。
			スタル沖	40	30cm未満	25-49%	3-15m	前回はオニヒデの確認は出来なかったが、急激なオニヒデの発生がありサンゴの状況を悪化させている。
			市崎沖	0	—	5%未満	5-15m	比較的サンゴは維持されている。
			青久沖	2	30cm未満	5%	15-20m	比較的サンゴは維持されている。
			和瀬沖	1	20cm未満	5%	10-20m	土砂による被害が確認できる。
大和村	460,000	今里立神	13	20-30	25-49%	5-8m	サンゴ被度30%。エンバンミドリイシ。食痕多し。	
		小浜	17	20-30	25-49%	5-7m	サンゴ被度30%。塊状キクメイシ混成。食痕多し。	
		名音	69	30<	25-49%	5-8m	サンゴ被度40%。食痕多し。大きなサイズが大半を占めている。ミウカサンゴ、オオハナヤサイサンゴ、ミドリイシ混成。	
		名音隧道	9	30<	25-49%	5-8m	サンゴ被度30%。食痕多し。ミウカサンゴ、オオハナヤサイサンゴ、ミドリイシ混成。	
		西浜	7	30<	25-49%	10-12m	サンゴ被度30%。数は少ないがサイズは大きい。ミウカサンゴ、オオハナヤサイサンゴ、ミドリイシ混成。	
		トルス	75	30<	25-49%	4-10m	サンゴ被度40%。食痕多し。大きなサイズが大半を占めている。ミウカサンゴ、オオハナヤサイサンゴ、ミドリイシ混成。オニヒデが全体に広がっている。	
		ヒエン浜(中央)	0	—	25-49%	5-10m	駆除を実施したためか、一匹も見あたらない。	
		ヒエン浜(戸円沖)	0	—	25-49%	6-10m	駆除を実施したためか、一匹も見あたらない。	
宇検村	201,000	屋鈍						
		平田						
		生勝						
龍郷町	381,000	円	0	—	0-24%	—	生きたサンゴは見られなかった。	
		円へ嘉渡	0		0-24%		生きたサンゴは見られなかった。	
		今井崎	0		50-74%		ハマサンゴ類が多く分布。ミドリイシ類のものは被覆状群体が見られた。	
		鯨浜先(ハナゴイ)	0		25-49%		ハマサンゴ系が多い。食害の跡が数カ所あり。被度は昨年より多くなった。	
		倉崎	0		25-49%		白化したサンゴが見られたが、環境の影響も考えられる。	
		白浦(北)	0		25-49%		順調にサンゴの生育しているのがわかる。	
		白浦(南)	0		25-49%		白浦(北)地点より若干サンゴは少ない。	
		赤尾木(中央)	0		25-49%		白浦同様にサンゴの広がりが見られる。	
		戸口(アウン)	5		25-49%		ここ数年で生育しているサンゴが多く見られた。	

平成18年度サンゴ礁モニタリング調査結果

NO.3

喜界町	360,000	荒木					
		池治					
		小野津					
徳之島町	72,000	畦	6	—	50-74%	—	
		畦	5	—	50-74%	—	
天城町	234,000	松原漁港沖	0.5	—	0-24%	—	昨年度の状況からあまり変化はなく、サンゴの再生の兆しは見あたらない。海底全体に暗い感じがした。
		浅間沖	0.5	—	0-24%	—	サンゴ被度は約20%。中には生きの良い小さめのサンゴが見られた。
伊仙町	147,000	喜念崎	21	—	50-74%	—	サンゴが白くなって死んでいる。オニヒトデは少なめ、小さかった。
		佐弁	52	—	50-74%	—	オニヒトデが多い。サイズも大きい。サンゴが白くなって死んでいる。
和泊町	480,000	西原	0	—	50-74%	2-12m	水の濁りが目立つ。水温が高く感じられる。
		出花	0	—	25-49%	2-8m	水の濁りが目立つ。
		ワンジョ	0	—	75%以上	1-6m	新しいサンゴの付着は見られないが、サンゴが再生しているように見られる。オニヒトデによる食害は見られないが、レイシカイによる食害が見られた。
		根折	0	—	25-49%	2-9m	オニヒトデによる食害は見られないが、レイシカイによる食害が見られた。
知名町	240,000	屋子母	0	—	0-24%	10-14m	
		屋者	0	—	0-24%	13-19m	
与論町	483,600	供利沖	0	—	0-49%	5-15m	オニヒトデの個体は発見できなかったが、レイシカイが多く見られた。リュウモンサンゴ、シワリュウモンサンゴ、ハマサンゴ等の被害が目立っている。
		皆田沖	0	—	0-49%	5-25m	死んでしまっているサンゴの上に新しいサンゴの成長も見受けられた。元気なサンゴの種類は、ハナヤサイサンゴ、ハマサンゴ、一部のミドリイシ等があった。
		茶花沖(北側)	0	20<0	0-49%	5-15m	死滅サンゴが広がり元気なサンゴは殆ど見られない。
		茶花沖(南側)	0	—	0-49%	5-15m	オニヒトデは発見できなかったが、食痕が見受けられる。また、シロレイシカイマシも多く見かけた。サンゴの幼体が多く見受けられた。
		赤崎沖(百合が浜側)	0	—	25-49%	5-15m	死んでいるサンゴの上に10-20cmくらいのサンゴが育ちつつある。
		赤崎沖	1	—	0-49%	2-18m	オニヒトデは発見できず、食痕も見られない。岩盤や既に死んでしまったサンゴの上に、直径10-15cm位の新しいサンゴが点在していた。
合計	7,351,600						